

2 当日の発表内容

(1) 主催者の開会挨拶

◎主催者の開会挨拶

○島口義弘（さっぽろ商店街わくわく応援団） 皆様、大変お待たせいたしました。

ただいまより、新球場建設構想フォーラム in まこまないを開催いたします。

本日の総合司会を務めさせていただきます、さっぽろ商店街わくわく応援団団長の島口と申します。最後まで、どうぞよろしくお願い申し上げます。

開会に当たりまして、主催者を代表いたしまして、私から、一言、ご挨拶を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、たくさんの皆様にご参加をいただきまして、まことにありがとうございます。

また、このような不便な場所に設定したことにつきまして、どうしても南区で開催いたしたく、いろいろ探したのですが、貧乏団体が開催できる場所で多くの市民が参加できる場所はここしかなかったのです。ご不便をおかけいたしましたことに、改めておわびを申し上げます。

本日主催をいたしますさっぽろ商店街わくわく応援団とは、札幌市内35の商店街で組織する札幌市商店街振興組合連合会が母体で、ファイターズの応援団組織としては札幌で一番大きな団体であり、ファイターズの移籍の前年から応援活動をしております。もちろん、ファンとともに観戦やファン交流、選手交流、少年野球教室なども実施しており、シーズン前には優勝祈願祭、優勝したときには優勝祝勝会などを自主的に実施しており、優勝パレードも構成メンバーとしてご協力させていただいております。

本日は、球団と札幌市だけで話し合っているように見え、我々市民はよくわからないという声が我々のほうにありまして、これではいけないということで立ち上がった次第でございます。

我々は、単に新球場が建設されるということではなく、地域の活性化や新たなにぎわいの創出、スポーツ振興などを願っており、札幌市民やファンとともに新球場が地域の起爆剤となることを願っております。

そのため、昨年9月から、「札幌でいっしょに大きくなろう。これからも。」というキャンペーンを実施しており、今回はその一環として開催をしております。

では、なぜ私かということになりますが、もちろん商売は中央区ですし、住まいは、現在、豊平区にございます。私は、もともと狸小路のお店の2階に住み、幼少期を過ごしました。ビルのジャングルの中で遊んでいた私は、日光にも当たらず、病気がちな子どもでございました。しかし、小学校3年生のときに五輪団地に移り住むこととなり、実は、この柏ヶ丘の五輪団地群に住んでおりまして、現在も所有をしております。

母校は、今はなき真駒内緑小学校、真駒内中学校であり、遊び場は、真駒内公園、藻南公園、花魁ぶち、石山、桜山、駒岡、滝野と南区を飛び回っておりました。その時代は、カッコウが鳴き、ヒバリがさえずり、湧き水が湧き、真駒内公園には原生林以外の木が全

く植わっていなかった時代からこの地におりまして、自然の恵みを受けて丈夫な体を取り戻しました。現在は、取り戻し過ぎましてこのような体形になってしまったことは残念でございます。

でも、知っておりますでしょうか。私が小さいころに遊んでいたときには、真駒内公園には木がほとんどありませんでした。私が遊んでいたときには、穴ぼこだらけ、要は、植樹をするための穴がいっぱいあいておりました。そこには水がたまっており、氷が張ってあったものですから、私はその上で遊んでおりましたら、見事、氷が割れて落ちまして、泥だらけになり、溺れそうになったという経緯もっております。そんな中、公園にはまだ木が少なかったのですね。もともとは米軍のゴルフ場として整備された場所で、私が移ってから植えられた木がほとんどでございますので、私と一緒に、ちょうど40年くらいたった木かなというふうに思いますので、今、ご覧いただけたらわかりますが、本当の巨木というのはなかなかないですね。そのくらい、きちんと整備された木で、私どもと一緒に育つて木が、今、現状であるということをご理解いただきたいと思います。

また、この柏ヶ丘は、本当は斜面がありまして、今はちょっと見えないのですけれども、屋内競技場から屋外競技場を全部見渡すことができましたし、そこでスキーをすることもできたのです。今は木が植わってしまって滑れないみたいですが、そんな時代から私はこのまちを愛していたわけでございます。

さて、本日は、札幌市、球団の双方から、現状で考えていらっしゃる事のご説明がございます。お聞きした皆さんは、きっと、えっ、もっと具体的な話ではないのと絶対に思われると思います。しかし、それは当然なのです。お考えください。まだ球団はどこに新球場を建設したいかは正式に表明してはいないのです。つまり、もし南区に建設しようとしたらこんな感じにしたいなという夢を語っていただくこととなります。

本日は、広島市民球場の新球場建設に当たり、スタジアム・アリーナを核としたまちづくりにかかわられましたスポーツファシリティ研究所代表の上林先生と、地域コミュニティーにご尽力されております北星学園大学の鈴木先生をお迎えして、南区のまちづくりとして球場をどう考えるかの勉強の機会にしたいと思います。

そうなのです。我々も勉強して知識をつけなければならないのです。だめだめと否定から入らずに、何がだめで、何がよいのかをきちんと整理する必要がありますので、今日はそんな機会になっていただければ幸いです。

もちろん、まちづくりは札幌市だけでも球団だけでもできません。我々市民と一緒に考えていくものであり、その意見を伝える場所をつくるべきだと思っております。ですので、本日は、皆様からご意見、ご質問などをいただき、そして、お書きいただく機会をつくりました。皆様のお手元に用紙があると思います。後ほど、いろいろなご意見を講義の中でお聞きしまして、お書きいただく時間をつくりますので、そのものを一部抜粋しましてフォーラム内でご紹介させていただきたいと思っております。

もちろん、紹介できなかった皆様からのご意見は全て札幌市と球団に、また我々が責任

を持ってお届けさせていただきます。また、フォーラム終了後には、本日の内容を、札幌市にご協力をいただきまして、市のホームページにご掲載していただくというふうに思っております。

また、本日のフォーラム開催に当たりまして、皆様とお約束の事項がございます。

本日は、勉強会という趣旨から、意見とかやじとかというもの、会場からのご発言は控えさせていただきますようお願いいたします。お約束を守られない方につきましてはご退場をお願いすることとなりますので、そのようなことがないように、紳士淑女のご対応をお願いいたします。

また、本日、受け付けを済ませられました報道機関以外の一般参加者の皆様によります写真撮影、録画、録音、またネットへの投稿につきましては、大変恐れ入りますが、禁止とさせていただきます。こちらのほうは、ご協力をいただきますようお願いいたします。

さあ、前置きが長くなりましたが、そろそろ始めさせていただきたいと思っております。